



8時間を耐え抜いて上位でゴールを迎えた皆さん。おめでとうございます、そしてお疲れさまです。

Aクラス

順位	チーム	車両	周回数
1	TAKE OFF	JA11	331
2	DB RACING	JA71	319
3	リミット	JA11	316
4	INNO RACING	JA11	284
5	DB RACING	JA11	268
6	IMPS2	JA11	257
7	飛泥鹿	JA11	184
8	4WD PROJECT		175
9	APIO	JA11	119

Bクラス

順位	チーム	車両	周回数
1	DB RACING	JA11	346
2	KONDO AUTO	JA51	316
3	K-PRODUCTS	JB23	224
4	和田/和田/川北	JB23	224
5	IMPS	JB23	217
6	ジャンクション	JA51	4



①ハイペースでレース序盤をリードした関根選手。②クルマがピットイン中は大忙し! ③Bクラスの優勝を飾った"DB RACING"。④Aクラスで優勝した"TAKE OFF"。何と8時間をひとりで走り切った。⑤コースは元スキー場の斜面を利用して製作。アップダウンもかなりある。



イベントの最後に記念撮影。皆さんお疲れさまです。来年もぜひ参加してください。

今年からスタートした「ジムニーだけの耐久8時間レース」。このレースはドライバーの体力やマシンの性能が問われる、真夏の8時間に開催される。コースレイアウトもジムニーの性能を引き出すため1/3はクロカンコースを設定し、サーキット+クロカンという様々なテクニクが試される。ノーマルでの参加も可能なA、チューニングが自由なBの2クラスを設定。ドライバーは8名まで参加可能で、見る側から参加する側へと誘うラリーになっている。

チームもあり、前日の公式練習から各チームマシンセッティングを余念なく行っていた。午前9時。横一線でのスタート。前半の2時間半は耐久レースとは思えないほどのハイペースでレースが展開した。ペースリーダーはIMPS関根選手。それに埒選手のマシンが追従する。この展開が一段落したところ、あちらこちらでマシントラブルが…。そしてクロカンコースではマシンがスタックすると一気に大渋滞…。コレを抜けるにはテクニクが必要な迂回路を選択することになるが、ソコもスタックのリスクが伴うため各車はメインコースを突き進んでいた。この順番待ちで各車の差が肉

迫した展開になった。レースは1回ピットインすると簡単に順位が入れ替わる状態。この抜きつ抜かれつの展開が8時間続きつばなしという、ギャラリーにとっては見応えのあるレース展開になった。Bクラスの優勝は小野/二階堂/埒チームが獲得。2位は常連の近藤オートチーム。3位はKプロダクツチームだった。ノーマルクラスの1位は331周とジムニーのポテンシャルの高さを実証する結果になった。来年は入門編のイベントとして年間2〜3戦を計画。ご期待下さい!



Event Album 01 新潟県

ジムニーサバイバル8HR耐久レース
マシンと人間の限界に挑戦!
真夏! の8時間サバイバル

■主催:NASC sandworks project事務局 ■開催日:2009年8月30日(日)
■開催場所:Jランド ■レポート:NASC sandworks project事務局